

# 尼崎市総合計画審議会 第2回総会 議事録

日時	令和3年5月14日（金）18:30～
開催手法	WEB会議
出席委員	青田委員、梅谷委員、加藤委員、川中委員、瀧川委員、武本委員、花田委員、久委員、室崎委員、八木委員、川島委員、小坂委員、小森委員、堂園委員、松原委員、村田委員、丸岡委員、徳田委員、山崎委員、綿瀬委員、勇委員、中西委員、仁保委員、畠中委員、原田委員、古川委員
欠席委員	稲垣委員、堀田委員、安田委員、楠村委員
事務局	稲村市長、吹野副市長、塚本総合政策局長、中川政策部長、田中総合計画担当課長、総合計画担当職員

## 1. 開会

- 令和3年度の組織変更について報告
- 付属機関の委員構成の見直しについて報告
- 資料の確認
- 議事録署名委員の指名  
梅谷委員、川中委員

## 2. 単年度PDCAの報告

（事務局）

<資料説明>

（会長）

総合計画の進捗管理は審議会の所掌となっています。特にこの施策間連携というのは尼崎市の総合計画において、非常に重要なものとして位置付けられております。私も他都市の総合計画についてお手伝いすることが多かったのですが、総合計画が他の審議会等とどう関わっているのかということが常に頭のどこかにあり、それがはっきりと表に出てくるというのはこれまでも私はあまり経験がありませんでした。尼崎市ではそれを顕在化させて、構造的な関係性、連携関係をイメージして、市全体の計画として進めていこうということで、この施策間連携ガイドブックの作成もずいぶん力が入っていて、良いものに仕上がっていると思います。また、これからどんどん進化していくと伺っております。事務局からの説明について忌憚のないご発言を頂ければと思います。

（委員）

素敵だなと思いながら拝見していました。やはり色々なことを進めるのに、評価というのは大事なことでありますが、何のために評価をするのかということ、ありがたい姿に向かって自分たちがどういう視点でチェックして、しっかりと振り返りながら、次につなげようということをされていることは良いと思います。ただ、これはどう活用されるのでしょうか。おそらく一般の方でも見られるような状態が出ていくもののように見受けられますので、オープンにしていること自体がとても素晴らしいなと。

(会長)

これをどう活用するのか、事務局の方でお考えがあればコメントをいただきたいと思いますがどうですか。

(事務局)

施策間連携ガイドブックですが、2～3 ページ目のまちの通信簿は施策評価の骨子を見開きにまとめて、わかりやすく表現をしております。そして、決算の評価を予算につなげていくという形で 4 ページ目からの主要事業につなげており、その後に計画一覧を記載しております。現時点では、市民の皆様には計画一覧をご利用いただく機会はあまりございませんが、計画策定に携わる審議会の皆様と、それぞれの計画の内容や本市が目指す姿、決算、主要事業の状況を共有したいと考え作成しているところでございます。もちろんホームページにも掲載しておりますので、市民の皆様に見ていただける状態ではございますが、審議会の皆様向けに作っているというのが現状でございます。

(会長)

市全体の関係性を示しているのので、ある意味では分かりにくい部分もあるかと思えます。市民委員の皆様、何か感想でも質問でもありましたらお願いします。

(委員)

「がんばりましょう」をできるだけ少なくするために、どのように改善していくのかということが大事になるのではないかと。

(委員)

まちの通信簿については市民の方が見られてもわかりやすいのではないかとありますが、“よくできました”と“がんばりましょう”だけなので、もう少し選択肢があったほうがいいのかと思いました。計画一覧というのは、審議会向けとのことで、市民には少しわかりにくいと思うので、もう少し市民にもわかりやすいようになればいいなと思いました。

(委員)

7 ページまでは、言葉遣いも含めてわかりやすいと感じましたが、計画一覧は、この計画は何の計画なのかということがわかりにくいです。計画の説明やテーマ、目標などの書き方も統一されていない印象なので、ただ並んでいるだけというような、ちょっと雑な印象を持ちました。テーマ、施策でまとめられてはいると思うので、各計画の説明をもう少し統一してカテゴライズするような形にできないかと。キーワードも書き込みすぎて、すごくたくさんあるので、ちょっと雑多な印象を受けるため、もうひと工夫できるのかなと思いました。

(委員)

計画一覧のところ、たくさん計画が並んでいるけど、どれがどうなのかという、これだけでは少しわかり辛いなと思いました。書き方を統一していただくとかだけでも改善されるのではないかとと思いました。

(委員)

このガイドブックですが、多くの市民の方にいきわたればと思いました。特に市内の高校生全員にいきわたるようにできないかと思います。やはり今後、尼崎市で活躍する若い世代が、このガイドブックで、ある程度現状を理解できると思いますので、これを見て市内に住んでいる高校生もしくは他市から通っている高校生にも、自分の住んでいる市のまちづくりを考えるきっかけになるものとして活用できると考えております。

(会長)

ガイドブックについては、わかりやすくたくさんの方にこれを伝えたい、なかでも高校生というご意見も出ましたが、皆さんに知ってもらうということが重要かと思えます。もっとわかりやすくできないのかというご指摘もあったかと思えます。いずれにしても他の市とはちょっと違う良い試みをしていただいていますので、ぜひともこれを市民委員の皆様のご意見を踏まえて、よりブラッシュアップしていただければと思えます。

(委員)

施策間連携ガイドブックというタイトルで、施策間の連携を促そうということですので、実際よくできたという部分は連携の成果としてよくできたという話もわかりますが、どのような施策間連携がなされたのか、というところが見えたほうが、タイトルと中身をより一致させることができると思えます。逆に“がんばりましょう”という評価は、どこの連携がうまくいかなかったのか、それを踏まえて今後どうフィードバックしていくのかというところが見えない。やはり評価は、フィードバックがどうなされるのかがとても大事だと思います。PDCAの流れに加えて、フィードバックの具体について、連携部分だけでも書かれた方が、タイトルと中身が一致するのではないかと思います。また、できたところはみんな褒めていくというのも大切なことだと思います。ただ、できてないところを叩くという評価になる傾向があるので、できたところは褒めるというのもしていけたらなと思いました。

(会長)

うまくいったところをみんな情報共有しながら次のステップに進んでいくというのは非常に重要な計画の進め方だと思います。

### 3. 第6次尼崎市総合計画 まちづくり構想（骨子）について

(事務局)

<資料説明>

(会長)

このまちづくり構想（骨子）として整理していただいている内容については、専門部会における様々な議論を踏まえ、事務局に整理をしていただきました。まちづくり構想と基本計画は相互に密接に関係しており、こういうシンプルである意味では荒っぽい整理にしている理由は、今完全に内容を固めるのではなく、骨子として確認いただき、基本計画の検討に合わせて、構想も進化させていくというような思いで、このような整理になっているということです。そういう意味で今日皆さんのご意見を踏まえて、進化、ブラッシュアップしていくということです。ぜひ忌憚のないご意見をいただければと思っております。

(委員)

これまで専門部会、特に拡大の専門部会では侃々諤々の意見交換を行ってきました。次期総合計画において、“ひと咲き まち咲き あまがさき”というキャッチフレーズを一つの大きな柱にしていきたいと思っていますので、この言葉を「ありたいまち」とするということでFIXして良いかを議論したいと思っています。今の総合計画にも“ひと咲き まち咲き あまがさき”という言葉が出てきます。この言葉は、今の総合計画を策定する際に、まず本体を作り、計画全体の内容を表すキャッチフレーズを公募で選ばせていただいたものです。そういう意味で、今回はありたい様子というものが、議論の中でふさわしい言葉が出てくる可能性があるとは思いますが、これから基本計画を考えながら、ありたい様子の短いキャッチフレーズの言葉をもう一度議論をするという、その手続きに、“ひと咲き まち咲き あまがさき”のキャッチフレーズを見出した過程が一つ参考になるのかなというように思いましたので、お話しさせていただきました。

専門部会でもこの5つのありたいまちのようすを表す言葉はかなり激論をして、短い言葉で色々なものを表すというのはすごく難しく、人によってとらえ方が違ったり、好みがあったりするので、まとめるのは難しいですが、なぜこのような言葉が紡がれてきたのかということ、今までの尼崎の状態とそして今の状態、そしてその延長上として未来の状態として事務局が整理をしていただいています。それが整合のとれたものになっているかという議論も賜ればと思いますし、この構成で理解できるかという議論も賜ればと思っています。私も「ありたい」ようすの構成（資料第3号3～7ページ）を見ると、もう少し分かりやすいデザインになれば、同じ書きぶりでも違ってくるのかなと。具体的には、例えば一番下に過去からの受け継いできたものがあって、今があって、未来があって、3段構えになっていますが、色のトーンとか仕分けのところが連続性みたいになっているので、一つここに白の帯があるのかなと思うので、そういうアイデアなどもご意見賜ればと思います。

(会長)

繰り返しですが、この骨子、構想（イメージ）をどんどんブラッシュアップさせていくことが、我々の役割ですので、忌憚のないご発言をいただければ、事務局も助かりますし、我々の方も情報が共有されて議論として良いなと思っています。

(委員)

とても良いなと基本的には思っています。“受け継がれてきたもの”“いま”“未来”というところの色分けが、すごく薄く段々濃くなってきているという感じで、少しわかりにくいので、ここに白い線かなにかを入れると、わかりやすくなるのかなと思いました。あと矢印ですが、私のイメージからするとこの“受け継がれてきたもの”から様々なものが合わさって、未来へつないでいくというようなイメージがあるので、こういう矢印はひとつの単純な矢印よりも、可能であれば竜巻がぐるぐると回っていくような、全部を巻き込んで未来に向かっていくというような矢印になったら、もっといいのかなと思います。

それと最近 SDGs ということが非常に言われているので、SDGs を意識し、アイコンを取り込んで、17 のゴールのこの部分と関係しているというアピールできたらいいと思いました。

(委員)

『ほっとかないだれも』とか『みなぎる。つながる。わたしのチカラ』など言葉遣いがいわ

ゆるお役所言葉ではなく、普段使いの言葉に近づいてきたと思いました。これまでワークショップで意見交換し、出来上がった言葉がここに集約されているので非常にありがたいと思いました。これを皆さんそれぞれが感じて行動に移すという点ではすごく良いと思います。また、尼崎市の広報課でブランドブックが出ました。“クセになるまち”という非常に秀逸なコピーがついており、内容や写真のグレードが高く、テイストも非常に良いものが出来ているなどと思いました。市の広報が作ったものとは思えないと感じており、総合計画を先読みしているのかわかりませんが、尼崎らしさをそこで表現しているなどと思いました。

(委員)

施策間連携ガイドブックは素晴らしいものが出来ていると思います。それとまちづくり構想の骨子と主旨ですが、どうまとまるかなと感じています。有識・議員部会では1度しか出席できませんでしたが、尼崎らしさをこのような形にまとめていただいて素晴らしいと思います。ただ、『ほっとかない。だれも。なにも』という表現は、すごく身近な言葉ですが、言葉は年代によって受け取り方が異なるので、年代的にどのあたりをターゲットに言葉を選ばれたのかということで、私は尼崎市としてファミリー世帯をターゲットに作られたものかなと受け取りました。どう表現するかは難しいと思いますが、人に届く言葉なので、検討していく必要があるのかなと思いました。全体的に良いものができていると思います。

(会長)

『ほっとかない。だれも。なにも』という言葉のターゲットはどこにあるのかというお話しがありました。これからの議論だとは思いますが、事務局から何かお考えがあれば一言お願いします。

(事務局)

『ほっとかない。だれも。なにも』は、【社会的包摂・多様性】を表わした言葉であり、尼崎市が色々な人を受け入れて発展してきたまちということで、特に年代を絞ったようなものではなく、支え合いや福祉的なつながりといったものを想定し、表現しております。

(委員)

専門部会や部会でのお話しが、このように綺麗にまとまるとはすごいなと思うところです。ただ、ここまで形になると例えば表現がばらばらであるように感じます。同じような柔らかい表現にした方がよいという会話の中で『ほっとかない。だれも。なにも』や『みなぎる』などの柔らかい言葉を5つ連ねていると思います。もともと3つの「らしさ」から、「くらしやすさ」「包容力」「市民のチカラ」「活力」「持続可能性」の5つへという経緯がありますが、再掲という形で同じ小さなターゲットがあちこちで登場してくるのをみると、この5つの「らしさ」にこだわる必要があるのかな、まとめてコンパクトに4つでも3つでもいいのかな、もしくは類似のものをばらして6つでも7つでもいいのかなと感じています。

(委員)

私も部会等で発言したことが非常に綺麗にまとまっていて驚いています。ただ、5つの「ありたい(ようす)」が、どういう意味なのかパッと見た時にわかりにくいと思いました。また、5つの「ありたい(ようす)」を、このような短いワードを重ねるのは印象に残りやすいので、

表現として今後ブラッシュアップしていけばいいのかなと思います。行政が作るこういう計画は、行政として良いものができた、うまくまとめたと思っていても、それが市民には広がっていかないところが課題だと思っています。「ありたいまち」の“ひと咲き まち咲き あまがさき”というキャッチフレーズも非常に分かりやすく良いフレーズだと思いますが、市民の皆様にとれぐらい認知されているのかという疑問もありますので、計画ができたらいかに市民に広げていくかというのが課題になってくると考えております。

(事務局)

「ありたいまち」の姿を“ひと咲き まち咲き あまがさき”と設定することを提示しておりますが、専門部会において、「市民意識調査を見ても認知度が高いということは分かるが、“ひと咲き まち咲き あまがさき”がどんなまちの姿であるのかをすぐに想起できない」というご指摘をいただきました。それを踏まえ、部会やワークショップ等でご議論いただいた「尼崎らしさ」を用いて“ひと咲き まち咲き あまがさき”のようすを表現し、皆様に共感していただけるまちの姿としてご提案しているものでございます。

(会長)

この「かっこ ()」はいるのでしょうか。

(事務局)

今後、「ありたい (ようす)」というものを、基本計画の検討と合わせてまちづくりの方向性や柱として使っていくことも可能ですので、そのあたりも踏まえて (ようす) をつけるかどうか、どういう表現がいいのかということも含めて今後の検討課題だと認識しております。

(会長)

もう一つ重要なご指摘がありました。が、“ひと咲き まち咲き あまがさき”は言葉としては、非常に良いと感じており、専門部会でもそういうご発言を頂いたと思います。この5つの項目でこれを説明しようとしているということで、みなさんのご指摘を踏まえてこういう姿になりました。市民の皆さんはこれをどう受け取るのか、そこにギャップはないのかということも気になるところで、そのような視点からご指摘いただけたと思います。現時点ではアンケート結果や市民の皆さんとの議論の中から「尼崎らしさ」を導いてきましたが、この辺りも気にしながら、今後の議論を進めていくということにさせていただければと思います。

(委員)

このイメージのところは大変よくできているなと思っております。ただやはり、市民の皆さんにどのように広げていくか、それを我々がどのように具体的に書き出していくのかということが非常に重要になってくると思います。専門部会の方でも申し上げてきましたが、やはり具体的に、市と企業それと市民がどのように結びついて、今後このまちを発展させていくのかという意味では色々な仕組みが必要であり、そこはものづくりのまちあまがさきですので、色々な産業がありますが、それを市民の流出を防ぐということも含めて企業も巻き込んで色々な体験ができるような仕組みを市で先導していく必要があるのかなと思っております。

(委員)

よく事務局がまとめてくださったなと思っております。5つのキャッチコピーがありますが、45万人の市民、バックグラウンドや年代も違いますから、受け止め方はすごく違うと思います。だからこそ、誰にこのメッセージを1番届けたいかが重要になると思います。やはり、一味も二味も違った総合計画にするために、みんなの納得度、満足度を高めようとすると平凡なものに落ち着いてしまう。そこで、コピーにどの程度エッジを利かすかが一つのポイントになると思います。例えば、資料2の4.で、『ほっとかない。だれも。なにも』はコピーとして面白いと思いますが、「なにもほっとかない」はどういうことなのかなど、言葉としては面白いが、具体的に考えたら疑問が残ります。次に『みなぎる。つながる。わたしたちのチカラ』ですが、他の言葉は全部動詞で一言ですが、「みなぎる。つながる。」と両方あります。これも、かえてこれで良いと受けとるのか、5つ横並びにするかということ。また、「たかまる。」「ひろがる。」は漢字を使っていいのではないかと。それから、「便利でご機嫌な暮らし」の「ご機嫌」は、すごく古い言葉であり、コピー的にはエッジが利いてないと思います。これもテイストの問題で、これからだれに読ませたいか、今回の計画は10年間ですから、10年先の市民を見込んで、ターゲットを考えるとということで、良いのではないかと思います。

(委員)

個人的な感覚で申し上げますと、5つのテーマで具体的にこれからブラッシュアップしていく中で、1つ1つ具体的にいろんなことを考えていける内容になっているのかなと率直に感じております。その中で、5つ目の「ひろげる。一步先の選択肢」は、他の4つとかなり重複している部分があり、どういう想いを込めて作られたのでしょうか。

(事務局)

この5つ目の「ひろげる。一步先の選択肢」というのが、資料第2号の4.⑤のとおり持続可能性を表すワードになっております。専門部会で「一步先の選択肢」「一步先の暮らし」という表現を使ってはどうかとご意見をいただき、そういった選択肢が広がっていく、という部分が、ありがたい様子として良いのではないかと考え、設定させていただいております。

(委員)

「受け継がれているもの」、「現在」、「未来」がどのようにつながっているのかがわかり辛いです。それと“ひと咲き まち咲き あまがさき”をこのままいきますか、と思っておりまして、構成する5つの要素についてもその数は別として、これらが言わんとしていることが“ひと咲き まち咲き あまがさき”に集約されるようなイメージが本当にできますか、という思いがあります。個人的には前回の専門部会の時にもお話ししましたが、“ひと咲き まち咲き あまがさき”が先行して、それがありきみたいなのところがあり、そのあたりのリンクがうまいことかないのではないかと考えています。むしろ、資料第3号の下の方にある「あまがさきの未来はきっと、もっと、おもしろい。」というようなワードの方が、前進するイメージもあるし、端的に尼崎のまちの状況を表すのではないかと感じました。“ひと咲き まち咲き あまがさき”については、もう1回議論してみてもいいのかなと思いました。

(会長)

「あまがさきの未来はきっと、もっと、おもしろい。」これもなかなか良いですね。ただ、

それを言い始めると混乱し始めますので、これは重要なご指摘ということで、常に後戻りしながら、進めさせて頂きたいと思います。

(委員)

よくまとめたなと思いながら見ていましたが、図の「受け継がれてきたもの」「いま」「未来」のつながりが分かりにくく、特に「未来」のところ、市民が自分事として捉えられるかと考えた時に、例えば『ほっとかない。だれも。なにも』の「様々な家庭環境でも子どもが夢や希望を持てる」というのは自分事にしやすいと思いますが、例えば「まち全体で学びと活動の裾野が広がっている」というのは、自分事というよりは客観視してしまうような感じがするという。あと、『たかまる。便利でご機嫌な暮らし』では「ファミリー世帯の転出超過が解消!」というのが、解消という未来に夢が持てるのかなというところで、それぞれ市民が未来のところを見た時に、自分事にできる、具体的な未来の尼崎市のイメージが持てるような言葉だといいなと感じました。

(会長)

表現の仕方は事務局のご苦勞がにじみ出ているところだと思います。もう一歩進めていただければと思います。

(委員)

キーワードの受けとり方が誰に向けたものなのかという話が出ましたが、受け取り方はそれこそ多様な人を受け入れている、そういう人と共存している尼崎だからこそ、平たい言葉を使うことで自由に受け取って、自分の頭を使って自分らしい尼崎をおもしろがって自由に作ってくれればいいと思っています。そういう余地を残すことが、「ありたいまち」の「あるべき」ではなく「こうありたい」と望むとあるように、こうしてくださいというものではないというのがポイントだと思います。尼崎らしい総合計画だと思うので、ここは緩く、余地を残したら良いのではないかと思います。

「ありたい(ようす)」についてですが、“ひと咲き まち咲き あまがさき”を構成する5つの“尼崎らしさ”で良いのではないかと思います。もともと“尼崎らしさ”をどう表現するかということ saying したので、「ありたい(ようす)」とか「ありたいまち」とかここで使っているので、それを構成するあまがさきらしさ、とするのはどうかというのが一つの意見です。あと5つタイトルについて、2つ目『みなぎる。つながる。わたしたちのチカラ』について、「みなぎる。つながる。」入れ替えたほうがしっくりくると思いました。行政、事業者、市民の協働を進めて、みんながつながるビジョンを共有・共感して一緒に何かできないかと考えて動いていくことで、尼崎のチカラがみなぎっていくということで良いと思います。あと4つ目『便利でご機嫌な暮らし』の「たかまる。」というところで「高い」のが良いのかというところがありしっくりこない。先ほどお話しに出た「クセになる」というのが結構しっくりくると思いました。尼崎の人は尼崎が好きで離れない人が多いので、「クセになる。便利でご機嫌な暮らし」が良いかなと思いました。5つ目の『ひろげる。一歩先の選択肢』は、「ひろげるべき」のように少し固いイメージがあるので、「面白がる」を使えばよいと思います。「面白がる。一歩先の未来」のように、いろんな人が自分なりに受け取る余地のある柔らかい言葉がプランの良いところだと思うので提案させていただきます。



(委員)

ガイドブックは分かりやすかったが、まちづくり構想の資料は、一市民としてこれを読んだ時に、どうすればいいのかが分かりませんでした。「未来」のところに、市民として、どう行動に移していったらいいのか、変容していったらいいのか、ということがわからなくて、標語集といいますか、読み終わった後に「へー」という感じで終わってしまいそうだなという印象を受けました。これを通して自分はどう変わっていったらいいのか、一歩進む何かみたいなものがこの中に書かれていてもいいのかなと思いました。全て落とし込むのは結構難しいかもしれないですけど、市民として読んだときに一番気になったのがここでした。これはデザイナーさんを入れて、デザインは変わるイメージでしょうか。

(事務局)

この計画は令和4年6月に市議会に議決をいただいて完成するものでして、冊子として市民の皆さんにお配りさせていただくときには、デザインは業者を入れながら進めていきたいと考えております。

(委員)

これが読みやすくなると、とても意味のあるものになるのかなという感じはしました。標語集ではなく、もう一つ、一市民としてどう行動に移していったらいいのかということがわかれば良いのかなと思いました。

(会長)

大変重要な点をご指摘いただいたと思っていますが、構想のたたき台は標語集みたいなイメージになってしまっていて、市民としてどう関与していくのか、この辺りは今後議論していく内容になっていくのかはわかりませんが、事務局としてどう考えていますか。

(事務局)

まちづくり構想の今回のコンセプトとして、構想全体を市民の皆様と共有していきたいと考えており、目指す姿はやはり共有しやすいもの、その中で尼崎らしさをふんだんに盛り込んでいくという点にとっても苦労してきたところです。市民の皆様と共有していく部分としまして、資料第3号の8ページの5番「まちづくりを進めるうえで大切にしたいこと」の記載内容をブラッシュアップしていくことにしており、基本的には本市の自治条例を踏まえて、行政も含めて、まちづくりに関わるみんなが共有できるルールを記載していきたいと考えております。当然ながら構想の下に基本計画といって、より具体的な取組を示すような計画がぶら下がりますが、市民の皆様と共有していきたいルールとしては、自治条例の基本理念という形で共有していきたい、それぞれが行動に移していただく形でまちづくりが進んでいけばと考えているところでございます。

(委員)

それでいうならば、この一番上の「未来」のところにそのような情報を詰めてもらえたら、これがこう繋がっているなどわかりやすいと思うので、別ページにするのではなく、この一連の流れに自分たちがどういう風にしていったらいいのかというものがあつた方が、この標語につながりやすくなるなと思いました。

(委員)

私自身、尼崎のサマーセミナーや環境オープンカレッジに関わらせていただいて、学びというコンセプトを軸に、そこで対話の場を作っていくというまちづくりの方法はすごく楽しくて、また、非常に素晴らしい方がいらっしゃることを知って私の人生の財産になっていますが、この中に学びという言葉がないなと思って見ていました。せっかくここまで学びを軸にしてきたのに、学んでいこうというラーニング、アクティブラーニングという言葉はありますけど、それを表現するのが非常に難しいと思います。なので、映像の活用など若い人たちにダイレクトに入っていくような形式も考える必要があると思います。さっきも申し上げました、ブランドブックの視点はすごく良いです。広報とどう絡んでいくかというところも重要だと思います。

(会長)

ラーニングというのは都市とか地域の施策を考えるうえで極めて重要なキーワードの一つとして、我々の領域では位置付けられておまして、基本的には情報共有しながら常にフィードバックして進化していくと思いますが、この辺りを言葉として、どこかに位置づけるのか、あるいは全体を通した哲学ということで、読んでいくとそういった感じが沸くというものにするのか、その辺りはまた作り上げていくプロセスをまた検討していければと思います。

(委員)

まちづくり構想ですが、まず2ページ目の「ありたい(ようす)」のところの1番最後の『ひろげる。一歩先の選択肢』のところではやはりこの表現ってSDGsに引っ張られているのかなと思ひ、「このまちが歩む持続可能なまちづくりは…」とある部分ですが、持続可能ではなく、持続すべきというところで引っかかっているの、そこはそんなに持続可能というところにこだわる必要はないのかなと思っています。また、3から7ページ目の図ですが、これだけ見るとどの世代の人をターゲットとしているのかよくわからないというのがあります。

それと、ありたいまちとして“ひと咲き まち咲き あまがさき”が単なる尼崎のキャッチフレーズではなくて、今後はこの尼崎らしい「ありたい(ようす)」の5つが土台となったパワーアップした言葉という受け止めをしています。となると3から7ページ目まで共通して、どの世代をターゲットにしているのかというところが引っかかかっておまして、できればターゲットの世代の人に間接的にこういうことをやってもらいたいというのがわかるようなイメージにもう少し落とし込んでいければいいのかなと思っています。そうすることによって理想的なのは“ひと咲き まち咲き あまがさき”という言葉を知れば、5つの「ありたい(ようす)」がパッと頭に思い浮かべられるという方が多くおられるというところです。そうするためには実際多くの市民の方が何をすべきなのかというところ、単にこの資料を読んでいるだけではなく、実際にターゲットの世代の方にやってもらいたいことを何か実践させるような方向に持っていき、実践することによって5つの「ありたい(ようす)」というのが叩き込まれるのではないかと、思ってこの資料を読ませていただきました。

(委員)

今皆様のお話を伺っていて、市民の方が何をやるのかわかるかどうかというところがすごく大切だなと思いました。最初から少し気になっていたのが、例えば5番目の持続可能性は他のところと比べてレイヤーが違うのではないかとのお話は部会からずっとさせていた

だいていたところです。市民の方がというのを考えた時に持続可能性は、基本的には行政の方が後押しするというイメージなのかなと思うので、そのあたりを市民の方がやれることを出そうとするとすごく難しい気がしました。それから、先ほどのガイドブックですが、市民の方のこういう場面で実は市のこういう計画と繋がっている、というような姿をお見せしたらずごく身近に計画を感じて下さるのではないかなと思いました。生活の場面を一つ切り取ってそれとどう関係しているのかをお示しすると、自分事として考えていただけるのではないかなと思いました。

#### 4. まちづくり基本計画策定に向けた分科会の設置について

(事務局)

<資料説明>

(会長)

総合計画は、総合という名のとおり、我々の暮らしや仕事といったあらゆる領域について、ご議論いただいています。これから、まちづくり基本計画を検討するにあたって実りある形で進めていきたいと思っています。検討にあたっては、たくさんの分科会を作ることができればいいのですが、ここでは3つということで提案をさせていただいております。学識経験者、有識者の皆さんについてはそれぞれのご専門の分野を意識しながら入っていただく、市民委員の皆さんはご希望を踏まえて入っていただくはどうかと考えております。先ほど事務局から説明がありましたが、他の分野にくちばしを挟まないということでは全くなくて、むしろくちばしを挟みに色んな所に行っていただくというのが1番良いのではないかと、形式上はメンバーということで作らせていただいておりますが、例えば第1分科会の方が第2分科会、第3分科会に行かれるということであれば、オブザーバーという形になりますが、正式委員と同等の発言、扱いにさせていただくということで、このような3つに分けてはどうかという提案でございます。この形での運営について、皆さんの方から何かございましたらご意見願います。

(会長)

特に意見がないようですので、事務局から提案がありました3つの分科会ということで、これから議論を進めていきたいと思っております。分科会の取りまとめは学識経験の方をお願いして、第1分科会を久先生、第2分科会は梅谷先生、第3分科会は青田先生をお願いしたいと思っております。

特にご意見もなさそうなので久先生、梅谷先生、青田先生どうぞよろしくお願いいたします。予定していた議事はここまでですが、冒頭事務局から説明がありましたように、市の方針として付属機関の委員構成が見直されており、市議会議員の皆様の参画がおそらく本日で最後になるということでございます。一緒に議論していただきました先生方ありがとうございました。ぜひとも一言ずつごあいさついただければと思っております。

(委員)

長い間みなさんご苦労様でございました。今回このような議員の審議会への参画というものを大変以前からでありますけど、議員が審議会に参画することについて改めるべきだろう

ということで審議会への参画というのが今回で最後になります。市の計画の中でも骨となる総合計画の審議会に、こうして参加ができたというのは本当に誇りに思っております。

今回の構想の中で“ひと咲き まち咲き あまがさき”というキャッチコピーや、尼崎らしさというところで、行政の皆様方が本当にご苦労されて、市民の方にとっては非常に分かりやすい、そのようなソフトな表現の仕方ということで、なかなか自治体には無いような形になったのかなというように思います。ただ、以前の審議会の資料のなかにありましたが、行政の職員の方々がキャッチコピーや総合計画の中身を知らないということがありました。市民だけでなく行政内部の共有といった部分も課題であると思います。

また、学識経験の先生方は自治体の総合計画について十分ご存知だと思いますが、尼崎は50平方キロの小さいまちではあるものの、それぞれの地域、阪急沿線、JR沿線、阪神沿線と沿線ごとでまちの色があると思います。これから計画策定にむけて取り組む中で、地域性等についてもご検討いただければと思っております。今回こうして総合計画審議会に参加させていただいて、本当にありがとうございました。

(委員)

総合計画審議会に参加させてもらいまして、議員として日常的に地べたのような議論をしている中で、尼崎の将来の夢を語るような議論に参画させていただいて、有益な時間だったと思っております。ぜひより良い計画の策定に向けて期待をしておりますのでよろしくお願い致します。

(委員)

総合計画は市民懇話会の頃から関わらせていただいておりますので、現総合計画は非常に愛着を持っており、できれば総合計画にずっと関わっていきたく思っております。今後も違った形では関われると思いますが、今回が審議会としては最後ということで、少し寂しい気持ちも持っています。総合計画というものは、尼崎のまちづくりの最上位計画であり尼崎市のビジョンである思っていますが、ありがたい未来のところで課題解決に偏っているという感じがしています。課題解決と聞くと、やっぱり市民レベルでは少し面倒くさいやしんどいというイメージがあるので、総合計画が市民に浸透してないというのはそういうところにあるのではないかなと思っております。

今回の構想の中で、“ひと咲き まち咲き あまがさき”がどんなまちなのか、はっきりとイメージ化できていないと感じます。まちづくりの方向性もはっきり定まっていないように感じており、絵にかいた餅になってしまうのではないかなと危惧しております。「らしさ」も大切ではありますが、これからの尼崎らしさを作るのは私たちということを確認するためにも、“ひと咲き まち咲き あまがさき”っていったいどんなまちなのというところから始めても良かったのかなと思っておりますし、同じ市内でも全然違った文化もありますので、6地区それぞれの“ひと咲き まち咲き あまがさき”があってもいいのかなと思いました。

それからもう一つは議員の参加というのはなくなりますが、その分市民の委員をもっと増やしてもらいたい。関わることで愛着というのも出てくるし、私も市民懇話会に入らせていただいて総合計画ってすごいなと感動しました。もっと市民参加できるようなプロセスを随時入れていただいて、より多くの方に知ってもらい、関わってもらい体制を作っていただきたいなと要望しております。本当に色々関わらせていただいております。ありがとうございました。

(委員)

今日の資料のことで意見を言わせていただいて、最後の言葉にしようと思います。“ひと咲き まち咲き あまがさき”というのはある意味イメージができるというか、人が凄く咲き乱れるというか活躍するというイメージが出来ますが、あとに出てきた5つの言葉が、あまりイメージがつかないという感想があるので、先ほど委員の方がおっしゃるように、この言葉を見た時に色々な年代の人や感覚の人がいる中で含みを持たせ、色々な感覚で見ることが出来る言葉を使っていたらいいなと思いました。あと、「受け継がれてきたもの」、「いま」や「未来」がありますが、この「いま」というのが、ただ市の取組を記載するだけでなく課題についても触れる必要があると思いました。みなさんこれから大変な議論になるとは思いますけれども、より良いものを作っていたらいいな。これで言葉にさせていたらいいなと思います。どうもお疲れ様でした。

(会長)

ありがとうございました。私も審議会当初から関わらせていただいて市議会議員の先生方とも丁丁発止してきたことを思い出しました。審議会の委員としては離れることとなりますが、議員の立場からこの審議会のこれからの過程をぜひとも見守っていただいてサポートまたはアドバイスをいただければと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。そうしましたら最後になりました。事務局の方から連絡事項などありましたらお願いします。

(事務局)

今後のスケジュールを、報告いたします。本日ご確認いただきました構想骨子を基にこれからその実現に向けた基本計画の検討を進めていきたいと思っております。先ほどの議題にありましたように基本計画の検討にあたりましては、専門部会と分科会で検討していただきたいと思っております。先ほどスケジュールにありましたように6月下旬から8月にかけて分科会を開催させていただき、議論を進めたいと思っております。委員の皆さまには負担となるかと思いますが、引き続きお力添えを賜りますよう宜しくお願いいたします。今後改めて分科会等の開催について事務局から日程調整をさせていただきたいと思っております。それでは閉会にあたりまして、稲村市長より一言ご挨拶を申し上げます。

(市長)

みなさんお疲れ様です。委員の皆様には本当に熱心な議論いただいて感謝しております。本日、構想のたたき台ということで、まとめを出させていただいたところです。ここからは、次の10年何していくことになるのという、まちづくり基本計画についての議論を進めさせていただき、それも踏まえて構想のブラッシュアップをしていきたいと考えています。色々重要なご指摘があったと思っておりますが、やはりこの計画を市民の皆さんが見た時に私たちもこんなことやりたいとか、こんなこともできるんだ、みたいなワクワク感とか手ごたえみたいなのをイメージできるようなものにしていければいいなというご意見が非常に印象に残っております、その意味でも基本計画についての議論も一度前に進めた方がよいのではないかな、とも思っております。引き続きよろしく願いいたします。

そして市議会議員のみなさま本当にありがとうございます。これからは市議会の方でより一層深い議論をこの総合計画含めた各計画についてお願いしていくことになると思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(会長)

市長からのご挨拶もありましたけれど、まだまだこれから進化をしないといけませんので、委員の皆様どうぞよろしくお願い致します。そうしましたらこれで総合計画審議会を終了ということにさせていただきたいと思います。

以 上